

II 特別連載 II

科学技術振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第260回

2020年初旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、来日プログラムが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を紹介している。その中から2件のレポートを紹介する。

早稲田大学の活動報告



多胡輝一
(早稲田大学
人間科学部助手)

中国・浙江中医薬大学との オンライン交流プログラムの

この度、さくらサイエンスプログラムの支援を受け、2020年12月5日から19日までの間、箇所間協定を結んでいる中国の浙江中医薬大学の学部生・大学院生17名と早稲田大学人間



科学学術院の学部生・大学院生39名がオンライン交流を行いました。今回のテーマとして、「高齢化社会における健康福祉とICT新興技術の活用を考える」が設定され、SDGs目標の1つである「すべての人に健康と福祉を」の実現に向けてICTの活用やソーシ



オンライン交流に参加する中国の学生とサポートする教職員

ヤルヘルスの観点から我々ほどのように関わっていくかを主題として交流が行われました。初日の5日にこの交流プログラムについてのガイダンスと両大学の紹介が行われた後、両大学の学生が混じり合ったグループが複数作られ、少数数でのディスカッションを通じて日中の健康福祉やICTの活用および各グループでの共同研究調査の課題について意見交換を行いました。

2日目を以降、4回にわたり学生が在籍する研究室の研究成果や自身が行われている研究を紹介したり、共同研究調査の途中経過報告や意見交換を行ったりしました。そして、12日には国際的な医療活動に関わってきた経験を持つ医師の松葉剛様から日本におけるコミュニティヘルスやICTを用いたヘルスケアの取り組みについてご紹介いただき、看取りを日常に取り入れるという特色ある高齢者・障害者介護施設を経営する石井英寿様からは、その活動内容について現場の写真や動画を交えながらご講演いただきました。また、本学教員による特別講義では、浙江中医薬大学の研究者も参加した、伝統医学とビッグヘルスデータによる高齢者の健康管理と生活支援に関する研究プロジェクトの成果が紹介されました。日本の特色ある事例と研究成果に対し、

皆さんとても興味深い面持ちで聴講されていたようです。
最終日の19日は、それぞれのグループがこれまでの意見交換と共同研究調査の結果について発表するオンラインシンポジウムが開催されました。最も素晴らしい研究調査を行ったグループにはBest Research Awardが、最も優れた発表を行ったグループにはBest Presentation Awardが参加者全員の投票に

九州工業大学の活動報告

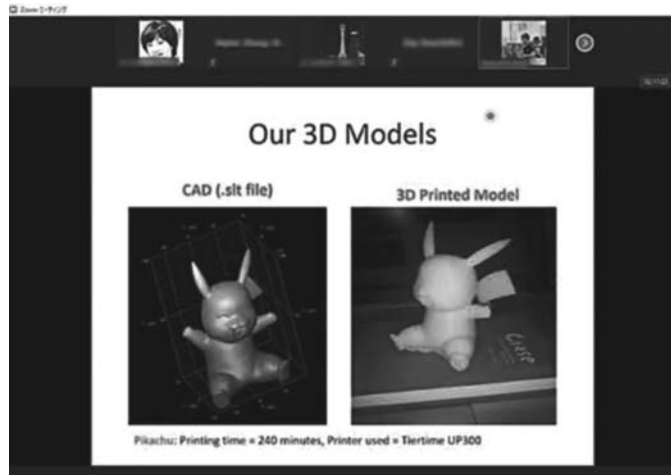


長山 暁子
(九州工業大学
工学研究院教授)

国際教育研究連携を促進 アジアの協定校と国際交流

2020年11月16日～12月18日、オンラインにおいて、「機械工学分野における国際交流協定校との連携強化によるグローバル人材の育成」を実施しました。

オンライン交流事業では、国際交流協定校である中国の3大学(青島理工大学、東北大学、山東大学)、マレーシア・マラヤ大学、



交流協定校との共同製作の成果

設計と議論は主にオンラインで行い、製作はそれぞれの大学の研究設備を利用しました。本学学生は、工学部内に整備された戸畑デザイン工房を利用して、コロナ感染対策を講じながら、久々のモノづくりを思い思いに楽しめました。マレーシアの学生はロックダウンの状況の中で行動が制限された状況にもかかわらず、チームメンバーと力を合わせてそれぞれの目標達成に貢献することができました。さらに、8件の研究室見学では、先導的設備の説明だけでなく、あらかじめ準備したデモ実験を中継しながら分かりやすく紹介する工夫も取り入れました。
一連の活動を通して、対面の国際交流とは異なる雰囲気になりましたが、教員・学生同士の幅広い交流を深めることができ、期待した以上に有意義な交流活動となりました。

よって選ばれました。
全日程を通じて有意義な意見交換や共同研究調査が行われただけでなく、今後も研究交流を続けていくため、両大学の学生同士で組織される研究会が発足し、共通の関心と興味のある研究テーマについてオンラインを主とする議論やシンポジウム開催等を行っていくことが合意され、更なる発展が期待できることとなりました。

台湾科技大学、韓国・昌原大学およびインド・コチン科学技術大学の計7校から学生39名と教員8名計47名を招き、機械工学分野における教育研究の国際交流を深めました。
高度な国際教育研究連携を促進するため、「International Joint Seminar on Mechanical Engineering 2020」を開催し、Zoomで10件の特別講演と12件の口頭発表、Remoで38件のポスター発表を行いました。いずれも最先端の研究成果が紹介され、参加者一同互いに刺激を受けながら、質問が飛び交う熱い会場で活発な議論ができ、有意義な情報交換の時間を過ごしました。

学生同士の交流を促進するため、学生が主体的に取り組み実験協働学習活動および研究室見学もZoomを通して実施しました。実験協働学習活動では、複数の参加校からの学生からなる国際混合チームを編成し、与えられた課題にグループで解決策を議論し、役割分担することで実験を実施し、最後にその成果を成果発表会で発表することにしました。本学からグローバルエンジニア(GE)コースを履修している10名の日本人学生と交流校から41名の学生で7つの多国籍チームを編成し、「Drilling wood to make fire」[Gyro manufacturing based on LCD light-curing 3D printer]「Designing a coining press」のテーマに取り組みました。